

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4170100582
法人名	有限会社 ナオエ
事業所名	グループホーム しのだ園
所在地	佐賀市本庄町大字袋326-20 (電話) 0952-26-3174

評価機関名	社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	平成 20年12月25日	評価確定日	平成 21年3月5日

【情報提供票より】(平成20年12月16日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 12 月 1 日
ユニット数	ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	14 人 常勤 11人, 非常勤 3人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り
	1 階建ての 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15000~20000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	450 円	おやつ	50 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(平成20年12月16日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 87 歳	最低	83 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	高森歯科医院 中原胃腸科内科医院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な住宅地の一角にある、民家改修型のグループホームである。買い物や散歩の際など交流、地域行事や老人会への参加等々、近隣との馴染みの関係も構築されている。管理者の思いが職員全体に浸透し、“笑顔で、ゆっくり、楽しく”を、日々実践されている。危機管理も行き届き、新型インフルエンザ等にもそなえ、食糧や水の備蓄、特殊マスクなども用意されておられる。また、第三者委員として行政書士の方がおられ、本人、家族、管理者、職員との間のなかで、より運営がスムーズにいくよう適切なアドバイスが受けられるようになっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価で指摘を受けた点は、職員全員で話し合い、改善に向けて努力されているが、更なる改善への取り組みが期待される。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価を日々の業務を見直す機会ととらえ、職員全員で取り組まれている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	現在は6ヶ月に1度、町区の班長や家族の出席のもと開催され、ホーム行事の報告や意見の収集に努められている。今後、2ヶ月に1度の開催を目指し、区長、老人会、市町へも参加の呼びかけ等行い、多方面からの意見の聴取に努め、更なるサービスの質の向上につなげられることが望まれる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	玄関に苦情箱を設置し、面会時には話しやすい雰囲気づくりや環境作りを心がけ、意見の収集に努められている。改善点があれば、職員全体で話し合い、運営に反映されておられる。また、第3者委員を置かれる等、苦情や相談等には積極的に対応されている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域でのホームの周知度も高く、老人会や近所の方の訪問も多い。日々の散歩の際の交流や川掃除への参加、馬頭漢音祭りの際には必ず参加するなど、ホーム側からの積極的な地域行事への参加も見られる。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	”笑顔、ゆったり、楽しく”という、開設当初に職員一同で作上げた理念の下、日々実践しておられる。	○	さらに、地域との関わりを如何に実践していくのかを明確にし、地域密着型サービスとしての理念を作り上げていくことが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	申し送り時、ミーティングの際には必ず理念を読み上げ、全員が周知すると共に、日々その実践に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域でのホームの周知度も高く、老人会や近所の方の訪問も多い。日々の散歩の際の交流や川掃除への参加、馬頭観音祭り際には必ず参加するなど、ホーム側からの積極的な地域行事への参加も見られる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を日々の業務を見直す機会ととらえ、職員全員で取り組まれている。外部評価で指摘を受けた点は、職員全員で話し合い、改善に向けて努力されている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	6ヶ月に1度、町区の班長や家族の出席のもと開催され、ホーム行事の報告や意見の収集に努められている。	○	2ヶ月に1度の開催を目指し、区長、老人会、市町へも参加の呼びかけ等行い、多方面からの意見の聴取に努め、更なるサービスの質の向上につなげられることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市との行き来は現在ほとんどない。	○	日頃より、市とのかかわりを密にするなど、相談しやすい関係作りに努め、市との連携を図っていくことが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月便りを出され、園行事の報告や写真などが紹介されている。入居者個々の様子等については、電話での連絡が行われている。金銭の収支についても月に1度来所時に、家族への報告がなされている。	○	園便りを活かし、入居者の様子の報告や職員の異動の際の紹介等も行っていくことが望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情箱を設置し、面会時には話しやすい雰囲気づくりや環境作りを心がけ、意見の収集に努められている。改善点があれば、職員全体で話し合い、運営に反映されておられる。また、第三者委員を置かれる等、苦情や相談等には積極的に対応されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動はないが離職する場合など、入居者の動揺がないように、細かい声かけを行うなど配慮されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数等に応じた研修の機会が提供されている。また、訪問医主催の学習会への参加など、ホーム内外での勉強会も積極的に行われている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームの見学や、合同の学習会の開催など、職員間でも交流の機会が持てるよう取り組まれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	必ず入居前に見学してもらい、本人、家族とも納得してからの利用開始を前提としている。ゆっくり慣れていただけよう関わりを密にするなど、職員も入居後半年は特に対応には配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者の方に対し、人生の先輩として向き合っている。さりげなく過去の仕事を話題にしたり、調理や園芸などの際には助言してもらうなど、いろいろな話を聞き出す工夫に努められている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族から情報を収集し、過去の仕事や趣味を活かせるような場面作りを工夫されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族との情報交換に努め、職員全体で話し合い、入居者個々に応じた介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のスタッフミーティングの際に、入居者の状態について話し合い、必要があれば随時見直しが行われている。介護計画は見直され、計画は立てられているが、モニタリングや評価についての記録がとられていない。	○	介護計画は見直され、計画は立てられているが、モニタリングや評価についての記録がとられていない。今後、様式を検討され、記録を整備されていくことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	理美容や通院の支援、買い物の付き添いなど、その都度必要に応じて柔軟に対応されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者、家族の希望される主治医のもと、適切な医療が受けられるよう支援されている。緊急時に昼夜を問わず対応してくれる、協力医との体制作りもできている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化した場合の指針、看取りについての指針等説明を行い、本人や家族の同意を得ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライドを損ねることがないように、丁寧な中にも親しみのある言葉遣いを職員全体で心がけられている。個人情報や記録等についても、その取り扱いには十分に配慮されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	”笑顔、ゆっくり、楽しく”の理念のもと、入居者の要望、希望に沿った支援がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者も食材の買い出し、野菜の皮むき等、できる範囲で職員と一緒に準備されている。食事の際は、職員も一緒に食べながら見守り、介助されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	季節に応じた入浴時間を設定し、基本的に一日おきの入浴が提供されている。希望があれば、毎日の入浴も可能である。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ジャガイモの皮むき、洗濯物たたみ、草取り、庭いじり等、入居者の状態や、生活歴を活かした支援がなされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物、ドライブなど、入居者が日常的に外出する機会を提供されている。定期的に、全員での外食の機会も持たれている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアの大切さは、職員全体で学習されている。しかし、ホームの現状として、玄関を出てからのスロープが急なため、危険回避を第一として玄関の鍵は日中も施錠されている。	○	危険の回避ということは理解できるが、鍵をかけないケアの大切さを今一度確認しあい、安全を確保しながらの鍵をかけないケアの実践に期待したい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は毎月実施され、地域の消防団との協力体制も構築され、近隣の方々への呼びかけもされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ミキサー食、お粥食など状態に応じ対応されている。調理師資格を持つ職員を中心に、栄養のバランスのとれた献立をたて、食事や水分の摂取量等についても把握されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花々が植えられ、廊下には2箇所にて窓がもうけられるなど、ホーム全体が明るく過ごしやすい雰囲気である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋には使い慣れた家具や仏壇なども持ち込まれ、入居者一人ひとりの好みに合った居心地のよい部屋作りに努められている。		